

2011年 6月号 通巻 570号



圓環

発行所 生長の家ブラジル伝道本部 発行人 村上真理枝

だい かい ほうぞう じんじゃ たい さい
「第55回 宝蔵神社大祭」



Av. Eng° Armando de Arruda Pereira, 1266 - São Paulo

Tel.: (011)5014-2222 - Website: <http://www.sni.org.br> - E-mail: enkan@sni.org.br

「青年全国大会」



せいちょう いえ きょうかそうちょう むかい よしお
生長の家ラテン・アメリカ教化総長 向 芳夫

がつしょう
合掌ありがとうございます

こんねんど せいねん ぜんこく たいかい さくねん たいかい
今年度の青年全国大会は昨年の大会か
らすでに促進を初め、青年の力を全面的に
はつき ぜんてい たいせい し
発揮することを前提とした体制を敷いて
せいねんかい ぜんいん と く すがた たの
青年会全員が取り組んでいる姿は頼もしく
かん
感じられます。

ことし とうほくはくち ほう せいねんたち ようせい だい
今年は東北伯地方の青年達の要請で第2
かいじょう しゅう しゅと
会場をペルナンブコ州の首都レシイフエで
おこな せくしん うんどう ふたて わか
行うことになり、促進運動を二手に分か
れて行っておりますので、東北伯地方の
ぜんそ しきおよ きょうかし ぶ ちよう みな きょうりよく
全組織及び教化支部長の皆さんにもご協 力
くだ しょう ねが もう
下さいますようお願い申し上げます。

せいちょう いえ しょうらい なん い げんざい
生長の家の将来は何と言っても現在の
せいねんたち あと つ こと
青年達が後を継いでくれる事になりますの
ことし はじ せいねんかい うんどうたいせい
で、今年の初めから、青年会の運動体制を
み なに おお しや ほうこう てんかん
見ておられますと、何か大きく視野の方向が転換
されて来ていることが見受けられます。

としはじ れんせいかい こどもれんせいかい
年初めからの練成会が子供練成会、ジュ
ニア練成会、青年練成会も年齢の枠を決
めた15才から20才まで、その後は幹部
れんせいかい じつ み ごと うんどうたいせい もと てんかい
練成会と実に見事な運動体制の基に展開さ
れたことです。

せいか みなさま ぞん とお
その成果はすでに皆様もご存じの通り、

こども れんせいかい れんせいかい おおぜいさんか
子供練成会とジュニア練成会に大勢参加さ
れたことです。

に ほんご ぶんや そうねん わかはと
さらに日本語の分野でも壮年若鳩と
ジュニア練成会が大勢参加された事が、ブ
ラジル生長の家の将来は明るい見通しが
でき たいへん うれ かくそしき かつやくくだ
出来て大変嬉しく、各組織で活躍下さる
かんぶ ぜんいん かんしやもう
幹部全員に、「おめでとう」と感謝申しあげます。

だいせいし たにぐちまさはるせんせい ちよしよ せいねん
大聖師谷口雅春先生がご著書『青年の
しよ 書』206ページに「今」を生かせ一の見
だしで次の様お書き下さいます。

「『生長の家』の兄弟よ。今があなた
の時なのだ。今！実に今だ！今のほかに
ときはない！兄弟よ。今あなたにあたえられ
ているすべてのことを今断々乎として敢行
せよ。今あなたに可能であると見えること
を何のためらいもなしに今実行せよ。これ
が『生長の家』の生き方だ。そして生命の
せいちょう ほうそく みち こうりやく げんざい
生長の法則にかなう道だ。」(後略) 現在
でんどうほんぶ かくそしき いっち きょうりよく
ブラジル伝道本部の各組織が一致協 力し
なお かくぶ もん もくてき む うんどう
て、尚、各部門でその目的に向かって運動
を展開して下さる事に心から感謝申し上げ、
その成功を祈るしだいです。

さいががつしょう
再合 掌

「三施の行」が幸福をもたらす



せいちょう いえ でんどうほんぶ り じちよう むらかみ ま り え
生長の家ブラジル伝道本部理事長 村上真理枝

がつしょう
合掌、ありがとうございます。

にんげん ちじよう せい う かみ あい あらわ
人間が地上に生を受けたのは神の愛を現すた
めであると教えられております。それが人間が
も っ 持って生まれた使命であるが故、人間は他に愛
を施すときに生きがいを感じ、「生まれてきて
よかった」という充実感と満足感を感じるこ
とができるのであります。神の愛を現すことは、
た よろこ とを 喜ばすこと、他のために尽くすこと、他の
不幸を取り除くこと、でありますから、生きる
喜びを感じない人は、どんなに些細なことでも
よい、一日一回は必ず他を喜ばし、他のために
尽くすことをやればよいのであります。

ぶつきよう さんせ い おし
仏教に「三施」と言う教えがあります。三施
とは、法施、財施、無畏施のことであり、法施
とは他に法を施す、つまり真理を伝え、お経を
捧げることの意味し、財施とは他に物資を施す
ことを意味し、無畏施とは、他に恐れを起
させない、恐怖心を取り除くことを意味するの
であります。この「三施」を毎日の生活に生き
ることが、神を表現することになるのであります。

その意味で、私たちにこの三施を実践する
機会を大いに与えて下さるのが生長の家の人類
光明化運動であります。他を練成会にお誘い
することは無畏施であり、聖使命会員となり、
せいちょう いえ うんどうき きん きょうりよく ざいせ
生長の家の運動基金に協力することは財施であ
り、病気で悩んでいる人に聖經をあげることは

ほうせ
法施であります。だからこそ、生長の家の運動
に携わって活動する人はやればやるほど、喜び
を感じるのであります。

2009年8月より、アチバイア市で生長の
家が同市役所共同で運営している保育園の校長
を務めているValeria Del Bono 講師は、2歳
から4歳の子供25名に生命の教育を施してお
りますが、その功績が市より認められ、教室を
別途建築し、今年5月より新規にもう25名の
生徒を受け入れることになり、何と応募してき
た子の数は188人に及んだそうです。そこで、
その188人の家族を一軒一軒訪問し、どの家庭
が一番貧しいかを見極め、25人を選出したそ
うですが、入学の際に、Valeria 校長は入園
生徒の両親一人一人に「貧しさから逃れ、もっ
と豊かな生活を望むなら、与えることを実践し
なければなりません」、と言って家族を聖使命
会員に入会させたのであります。両親の多くが、
けんきん はじ なに し ふ し ぎ ところ ゆた
献金を始めて「何か知らないが不思議に心が豊
かになり、神様に守られて生きているという
安心感が生まれました」、と訴えてきたそう
です。このように、自分も愛を施すが、他にも愛
を施すことを教えることが生長の家の運動であ
ります。皆様と一緒に、三施の行を施すすばら
しい生長の家の運動に今日も明日も明るく、楽
しく取り組みましょう。

さいががつしょう
再合 掌

「宝蔵神社大祭」

2011年度の大祭で260万柱以上の霊牌を祭祀



生長の家ブラジル伝道本部の主要イベントの会場には一万六千人の参加者が訪れ、14カ国にインターネット配信が行われた。幹部及び信徒の方々の誠意が、この運動の歴史に、さらに1ページを追加することになった。2011年4月10日、イビウーナ練成道場にはブラジル全土、そして海外からもこの行事に参加するために集まった人で埋まった。ラ・米教化総長向芳夫本部講師が主任祭司として第55回ブラジル宝蔵神社大祭、そして第27回全国流産児無縁霊供養塔における供養祭の祭司を務め、9日(土曜日)から500名の講師が2,654,000柱を超える霊牌を読み上げて招霊した。当日の参拝者は16,000人を超え、バス、マイクロバス、ワゴン車、乗用車、計1,937台の車で3ヶ所の駐車場はまんぱいとなり、駐車場に駐車できなかった車は道路の路肩に駐車した。1,300名を超過する数の実行委員の協力により、調和のう

ちに執り行われた。大祭の前夜から当日の朝まで、イビウーナ市は大雨だったが大祭中は好天気であった。メインセレモニーの挨拶の中で、向本部講師は「私共は、大祭開催時は晴れると確信していましたが、ご先祖様のお守りを頂いて、やはりその通りになりました。」と述べた。

儀式—8日(金曜日)午後4時30分に、既に各教化支部から送付されていた100万柱の霊牌を霊宮安置室から運び出す儀式が行われた。それらの霊牌は大講堂へと運ばれ招霊が行われた。9日(土曜日)には三つの儀式が行われた。午前7時、御霊抜きが執り行われ、次いで、2010年度の霊牌が焼却されるために取り出され、270万柱の浄化の儀が行われた。8時30分に、大講堂で2011年度の霊牌の招霊が始まった。今年、初めて招霊を行う講師の方々も儀式専用の服を着用された。



行事—霊界に関する質疑応答のほかに、道場に存在する各聖塔の起源について説明があり、その後、本部講師のフェルナンド・アントニオ・メンデス・マルケス講師の講話が行われ、「聖經読誦が始まったら、全員精魂をこめて読誦しましょう。」と言われた。1993年以来ずっと大祭に参加しているという、サンパウロ市在住の講師ナジル・デ・アルメイダさんは、「毎年、この行事に参加するたびに新たな感激を受け、私自身も数えきれないほどの体験をしました。」と言われた。

100点満点の行動一次のようなことが生長の家ブラジル伝道本部運営部の目に留まった。「参加者の方々が、ゴミの分別に徹底され、大いに協力してくださいました。」と、ISO 14.001認定を受けたブラジル生長の家の三事業所の一つであるイビウーナ練成道場の総務担当者であるジル・カナシロ・フィーリョ講師が語った。大祭当日は100リットルと200リットルの大きなゴミ入れ、99個が設置された。また、食べ物を販売した22のブースも、ISO規格に



対応した。感激—午前中は、大祭の起源について、そしてまた午後から執り行われた全国流産児無縁霊供養塔における供養祭の意味について、向芳夫本部講師の説明が行われた。儀式後、生長の家ブラジル伝道本部理事、村上真理枝本部講師は挨拶の中で次のように述べられた。「この全国流産児無縁霊供養塔における供養祭の儀式により、全ての罪は洗い流された。これで、皆生まれ変わり、赦されたのです。」と語った。

配信—この行事はラテン・アメリカ14カ国、そしてブラジル全土の数十箇所もの拠点にインターネットを通して生中継で配信され、また、講師及び光明実践委員もこれにアクセスすることができた。配信は午前8時30分から開始し、午後2時まで続き、アクセス数は2,444件であった。市長—大祭当日は、観光リゾート地であるイビウーナ市の市長コイチ・ムラマツ氏とアパレシーダ・シロコ・ムラマツ夫人、そして市政府運営に携わるアジェノル・ペレイラ・カマルゴ及びジョエル・ファイス両氏が出席された。「本当に感動しました。

このように盛大なイベントを行うことができる生長の家に賛嘆の言葉を送ります。」とムラマツ市長は述べられた。

焼却 — 今年度の大祭では、六つの焼却炉のうち二つには水による煙抑制器が設置された。新しい試みとしてテスト



「二日間に亘って招霊を行った500名の講師の皆様」 500 prelores evocaram por 2 dias consecutivos



「三ヶ所の駐車場は全て満車」 Todos os 3 estacionamentos lotados

使用されたこの機械は、一見みたところ通常の煙突の形をしているが、文字通り煙が高圧下で洗浄される仕組みとなっている。

この機械は、煤を殆ど除去し、焼却中の一酸化炭素放出量を70%減少するものである。

「会場に設置された3台の大型スクリンの一つ」

Um dos três telões instalado em frente ao Santuário Hoozo ←



→ 「テスト使用された2コの焼却炉」

Novo incinerador foi testado



「かわいい参拝者も御先祖様に手を合わせる」 Crianças oferecem oração aos antepassados



「ゴミの分別に協力する参拝者」 Participantes colaboram na coleta seletiva

「壮年・若鳩・子供見真会」



2011年3月12、13日、イビウーナの南米練成道場で第35回壮年・若鳩見真会が行われた。担当講師は宮崎エイトル本部長、市川レオノール本部長、前園とし子講師。

今回の見真会のテーマの一つは「女性の幸福」についてでした。谷口雅春先生は、そのご著書に女性の天分についてお書きになっておられます。(前略)「女性の天分は柔らかいということである。」(中略)「柔らかいのは愛の象徴である。愛が完全にあらわれた女性はまことに神様の傑作そのものであり神の栄光そのものである。」

「女性と雖も神の与えた天分を發揮し得る自由を与えられなければならない。すべての女性が家庭にだけ使命を見出す訳ではないのである。時には、数学に天分を見出す者もあれば、科学に天分を見出す者もあるし、政治に天分を見出す者もある。しかし、大多数の女性は、よき妻となり母となることが天分である。」(中略)「それは愛の拡大であり、美の拡大であり、エレガンスの拡大であり、平和の拡大であり、女性の行くところ争いがなくなり、柔らかさと、温かさ、やさしさと、男性の剛毅や勇敢さと調和して、其処に調和した社会が実現す



「熱心に真理を学ぶ参加者」
Estudo da Verdade



「壮年・若鳩見真会 — 担当講師」
prelores do seminário soonen wakahato



「子供見真会・担当講師と実行委員の皆様」
prelores e coordenadores do seminário kodomo



「真剣に神想観を実修する子供たち」
sintonizando com Deus

るようであればならないのである。」女性として生れたことに感謝するとき、何を為すにも感謝の心でするようになるので、必ず幸福になる。私達女性は選ばれてこの夫の妻となったのである。

他を幸福にすることが私達の本当の願いである。

『女性の幸福 365 章』は、女性だけではなく、女性の心を知るために男性も読むべき本である。

妻は花、夫は花を支え導く茎である。

もう一つのテーマは神想観の大切さだった。

生長の家は、肉体人間を霊的存在なる神の子の真の我に変えることを教える。

人間は、深海に潜ってまた水面にもどる潜水士のようにしなければならない。実相

の奥深く入り、内在する実相を会得してこの形の世界へ持ってくる。神想観によってわたしたち物質を超越し、肉体を超越し、心を超越してより高い世界、神がおつくりになった完全円満な実相世界に入るのである。

顕在意識は思考し、計画し、問いかけ、分析する意識である。潜在意識は単に記憶する。

通常私達は古道具類は地下室にしまっておく。そしてそこを調べてみると、思わず笑ってしまうほどとっくの昔に処分すべき物が見つかったりする。潜在意識も同様で、色々な出来事、光景、話、場面などがその中に忘れられている。顕在意識にはある種の情報が無いので、私達はその記憶は無

くなったと思う。運命の形成は心から始まる。子供見真会の担当は、鈴川はるえ講師、島田たかお講師、特別招待として城みずえ講師でした。

子供たちに盛り沢山の楽しいプログラムが用意され、お話、リクリエーション等が行われた。親孝行や神想観そして神の子としての自覚を持つ大切さを講師の皆様

がやさしく説き、子供たちは真剣に聞き入り、雨天にも関わらず子供たちは、楽しそうに走り回っていた。

大講堂での壮年・若鳩見真会には参加者は実行委員を含め 480 名。子供見真会には子供と実行委員を含め 294 名で、合計 774 名の参加があった。

「ブラジリア壮年・若鳩・子供見真会」



去る 2 月 19、20 日に第 27 回子供見真会、第 1 2 回壮年・若鳩見真会がブラジリア教化支部で行われた。担当は中村イリネウ講師と松崎広子講師の指導のもとに 140 名が参加。

遠くは 300km 離れたミナス州パラカツ市、ゴイアス州アナポリス市からの参加者もあり、二人の先生の熱情ももった深い真理の解りやすい、ユーモアたっぷりの講話に参加者一同心からの喜びに満たされ、又来年の再開を約束して帰途についた。

「2011年・上半期地方講師・光実委研修会」



「質疑応答一質問に答える、向芳夫本部講師、村上真理枝本部講師、石井ルイス本部講師補」



「会場で受講する講師の皆様」

去る3月20日（日曜日）午前8:30分より伝道本部別館に於いて、日語講師・光明実践委員研修会が行われた。

担当は、生長の家ラ・米教化総長・向芳夫本部講師、生長の家ブラジル伝道本部理事長・村上真理枝本部講師、々講師局副局長・石井ルイス本部講師補。

司会は大泉政雄講師、前園敏子講師。

聖市近郊の教化支部は、別館で直接研修を受け、他の教化支部は、インターネットを通じて、同時に研修を受けた。全参加者は285名で19の教化支部のリンクがあった。

司会者より、ごみの分別の協力の呼びかけが行われた後、開会の祈りが向芳夫本部講師によって行われ、谷口雅宣先生の東北・関東大震災の被害者の皆様への祈りを朗読された。

聖歌「さあ、おとび白鳩よ」斉唱の後、第一研修「いのちの自由」をテーマとして、

村上真理枝本部講師の講話が行われた。

人間は誰でも病気になる、病気になるのも治りたい、金持ちになりたい、家庭又は国家が良くなってほしい、これらの心の状態は自由を欲する希望に発している。

なぜならば、命の本体は自由であるからである。本当の自由は一刻一瞬に久遠の生命を体験することではなければならないのである。

「生長の家では『今を生きる』という言葉が『生命の実相』の随所に述べられているのであります。この、『久遠の今』を生きる、『今』の瞬間に永遠を生きることが出来ましたならば、あしたに生きたならば夕べには死んでもよいという実感が湧いてくる。これが永遠の生命を今生きている人の本当の自由の体験である。」と谷口雅春先生がお書きになられた御文書を紹介

しながら、人間の自由とは何かを分かりやすく説明された。そして参加者の皆様にこの真理を

理解し、実行して自由になってほしいと村上本部講師は講話を締めくくった。

第二研修は「新たに生まれるという意義は」をテーマに向芳夫本部講師の講話が行われた。

家庭の中での価値、社会での価値、それぞれが持っている価値があり、永遠価値ある生活を送ることは消えない価値であり、人生を後悔のないように生きることが大切であると話された。

自分が此のみ教えの素晴らしさを自覚しなければならぬ。神の子は、神の子らしく生きた時が、本当にこのみ教えを自覚することになる。

木は一日ミリ単位で生長している。それと同じように人間も毎日、わずかでも進歩しなければならぬ。

「皆様も前進しブラジルのため、人のために頑張ってもらいたい」と激励の言葉をかけられ、講話を終了した。

次いで、石井ルイス本部講師補が「儀式・姿勢・作法の実習」について、話され、「祭ることは神と人間を祭り合わせることであり、自分は神の子である気持ちをもって供養をしていただき、神様がそこにおられると思って、儀式を行う」。生長の家における儀式の基本的な考えについて詳しく説明された。

昼食後は、イビウーナ練成道場で4月20日から25日までに行われる「神性開発一般献勞練成会」参加の重要性について中村厚子講師の説明があった。

「無償で働く、そして人の為に役に立つ喜びを感じる特別な練成会であります。

そして、今年は33回目を迎えることになり、各教化支部の協力があれば、必ず素晴らしい最高の献勞練成会になるにちがいありません」と熱く語られた。

第三研修では「和解の倫理」で石井ルイス本部講師補の講話が行われた。

生長の家では倫理学の中心思想は人と神は一体であると教えられる。

全てと調和すれば何者にも害されない。結核菌は害すると思うと、被害を受ける。現象と和解するのではなく、実相と和解することが大切である。

実相と和解するという事は、現象はないのだと思うことである。実相と実相が一体になった時、本当の姿が現れる。

最後に「参加者の皆様にもっともっと勉強をして実相を自覚して頂きたい」と語られた。

第四研修の質疑応答で、インターネットを通してまたは会場の参加者から寄せられた質問に向本部講師、村上本部講師と石井ルイス本部講師補は丁寧に応答された。

研修最後の結語で向芳夫本部講師による「宗教が人を救う」というテーマのもとに講話が行われた。

向講師は即身成仏の真理を分かり易く説かれた。

此のみ教えが間違いがないと自覚をもって運動に頑張ってもらいたいと激励の言葉をかけられ、閉会の祈りに続いて、全員で「使命行進曲」を斉唱して、充実した一日の講師研修会は終了した。

「東日本大震災支援キャンペーン浄財贈呈式」



「Campanha de arrecadação para as vítimas do terremoto no Japão」

「前列向かって左から、向芳夫本部講師、村上真理枝本部講師、税田清七講師。後列左から、援協会長森口氏、文協会長木多氏、県連会長園田氏」

震災発生二日後に理事会で特別義捐金口座を開設し、各教化支部又信徒の皆様へ支援を呼びかけた。

その結果、生長の家ブラジル伝道本部教化総長・向芳夫、理事長・村上真理枝、理事・税田清七理事が4月4日午後、東日本大震災の支援キャンペーンで集まった義捐金40万レアル(R\$400.000,00)をブラジル日本文化福祉協会・木多喜八郎会長に手渡した。この義捐金は日本赤十字社へ送られる。

文協ビル会議室で木多会長、森口イナシ文協支部長、園田明憲県連会長が出迎えた。

贈呈を受けた団体を代表して、木多文協会長が「ブラジル社会に大きく貢献する生長の家の協力を、非常にありがたく思う」と謝辞を述べた。村上真理枝理事長は「全伯の会員の皆様から寄せられた心のもった浄財です。どうか一日も早く必要としている方々に届くことを願います。」と挨拶をされた。

生長の家は、震災直後犠牲者の追悼のため、聖教『甘露の法雨』の連続読誦、又3月17日に犠牲者への追悼式が伝道本部大講堂で行われた。約700人が祈りを捧げた。

連載・真理の勉強(第36回)

『一番大切なもの』

谷口清超先生著



何を第一にするか

金を求めて

最近日本は技術力や経済力が発達し、金持ち国になったと言われている。昔から金銭力は「使い方」によって人々を幸せにすることもできるが、一方、ワイロにもなるし、ワイロにもなるとされている。それ故、ただ単に金や力が沢山あるというだけではダメであり、それを「どう使うか」ということが問題で、心の持ち方が一番大切だと言わなければならないのである。

お金を個人がどう使うかということは大きな問題で、きれいな使い方と、きたない使い方とがある。あまり金に執着しすぎて、妻を離婚してまで金をためこもうとして大失敗した人の話も聞いたことがあるが、次のような例もある。沖縄県中頭郡読谷村字波平というところに住む天久政弘さんは、お金を苦しめられた被害者であった。彼は六人兄弟の長男として生まれたが、松繁さんという父親が金のことにとてもうるさい人で、口を開けば「金、金、金」といった育て方をした。そのため読谷高校を卒業す

ると、すぐ逃げ出すような気持で、本土に渡ったのである。

何故松繁さんがそんなに金を節約したかという、この父親は昔小さい頃農家に売られて行って重労働に従事し、その時の貧しい苦しさは身にしみついた。金を大切にしなければならぬ、金次第で人は幸せになるし不幸にもなるという気持から、位々の暮らし方になって行った。けれども政弘君はそれに反発し、

「金集めが人生ではない。もっと本当の幸せな生き方があるはずだ」

と考えた。その上夜になると父は、酒のみながらグチばかりこぼすのだ。その姿を見ていると、人生が空しく、はかなく、やるせない。しかし一方、金を儲けたいという気持も伝わってくるから、本土に行って仕事をする時は、一番金の儲かる仕事をやろうと思い、長距離輸送の運転手になった。毎日の仕事は厳しくてつらいのである。

東京大阪間を週三回往復した。従って眠る時間は少なく、体がものすごく疲れる。一体、何のために生きているのか……そんなことを考える時間すらない。勿論、本を

よきにもなれないのである。その上、若い世に肩こりがひどく、腰の痛みにも苦しみ、トラックの運転席に指圧器を取りつけて、深夜もそれを使いながら走り続けていた。

来る日も、来る日も、睡魔との闘いだ。うっかり居眠りして、ガード・レールすれすれに走ってハッと目を醒まし、冷汗をかいたことも何回かあった。ところがある日、大阪からの帰途、天理市のある食堂に入ると、そこに『白鳩』という雑誌が置いてあった。何気なくひらくと、「親孝行とは」と書いてあった。

何が大切であるか

いつも彼の心の中には親への反発と、親への温かい思いとが混交していた。

で思わずその雑誌を手にとり読んでみると、本を読んだだけで病気が治ったり、不良少年がよくなったりする話が出て来る。当時政弘さんは、夜通しトラックを運転して目的地に着くと、仮眠をとる時も、神経が高ぶってなかなか寝つけなかった。

ところが『白鳩』誌を読んでいるうち、不思議に心が安らぎ、ぐっすり眠れるのだった。そこで彼は毎日この雑誌をよむことにした。中々すばらしい話を書いてある。人間神の子だ、本来死ぬことも、病むこともない「生き通しのいのち」であり「仏性」そのものである — これは実に何とも言えない救いの言葉であった。

すると、どうしてもこの話が本当かど

うかを確かめたいおもいにかられた。そこで短期練成会というのがあることを聞き、飛田給の練成道場へ行ってみる気になった。入ってみると例のごとく、「有難うございます」と合掌して迎えられ、明るい笑顔の人々が一杯集まっていて、とてもためになる講話がある。金よりも物よりも、もっと大切な愛があり、不滅のいのちがあり、心という宝物があるということが語られていた。更に先祖供養も教えられ、浄心行も行われた。僅か二泊三日の練成会ではあったが、その時はじめて「生きる」とは何か、「人生」とは何かを知ることが出来たのであった。考えてみると今までは、父の教えに従い金儲けを目標に遮二無二働き続けたが、感謝の心や、愛の心こそ金では買えない宝であり、悦びそれ自体であると知ったので、それ以後とても明るい心で仕事に熱中した。すると全てのことがトントン拍子にうまく行く。それまで十年ほどは働いて、あとはフーテン暮らしをして、一生結婚なんかしないつもりでいたが、その心が変わり、家庭生活を送り、親孝行もしたいという気持ちになり、やがて結婚生活に入ったのである。

さて家族を川崎市に住ませ、今までの長距離の運転手をやめて、短距離の日帰り運転に切りかえた。すると給料は十六万円ほどで安くなった。従って生活は苦しいのである。その苦しきから、ともすれば暗い気持ちに落ち込みそうだった。するとその

うち交通違反で三十日間の免許停止処分を受けた。これは運転手には、大変な痛手である。しかし彼は、生長の家の、人間神の子・無量力の教えを思い出し、その間近くの誌友会を訪ね、家族三人で什一会員になったのである。

するとどうしたことかその翌月から、二十万円の給料がもらえるようになり、仕事も朝日のさす日光街道の並木道を気持ちよく走れるようになった。こうして金を目あてにアクセクと働いていた時は得られなかった明るい世界が開けて来た。心が肉体にも環境にもあらわれて来る。だから健康もよくなり、給料も上がり、ドライバーの嫌う雨の日も、「みそぎの雨だ」と思ってたの楽しく働くようになった。

さてこうして、金銭の呪縛からまぬがれた天久さんは、時間に余裕のある日雇運転手になり、仕事のない日はタクシーに乗ってアルバイトをした。その客待ちの

間、『甘露の法雨』を読む。すると乗ってくる客が、「このタクシーの雰囲気がい」とほめてくれる。神に祈りつつ、愛の心で運転すると、面白いように売り上げが上がり、同僚からは不思議がられるくらいになった。

このような日々を送っていたが、昭和五十六年ごろ父親の直腸癌が知らされ、家族一同で沖縄に引きあげ、母親のしていた豆腐屋の仕事を継ぎ、売り上げも三倍ぐらいにふやすことが出来た。すると父の病気も、手術を受けた後の経過がよく、すっかり心安らかとなり健康な日々を送り、一家族が仲よく安らかにくらすことが出来るようになったのである。その上誌友会も開き、中学時代の友達だった奥さんとの間に六人の子供が生まれ、当時三十八歳の新進相愛会長となって活躍し出した。あんなにかね、かね、かねと主張した父親も、日々『甘露の法雨』の読誦をするすばらしい信仰者となられたという体験談であった。

(01) 技術力 o poder tecnológico	(02) 経済力 o poder econômico	(03) 金銭 dinheiro
(04) 兇器 arma mortífera	(05) 執着 apêgo	(06) 離縁 divórcio
(07) 被害者 vítima	(08) 本土 território principal de um país	(09) 節約 economizar
(10) 農家 família campestre	(11) 重労働 trabalho pesado	(12) 従事 dedicar
(13) 金銭本位 dar prioridade ao dinheiro	(14) グチばかりこぼす só resmungo, só se queixa	(15) 空しく vazia
(16) はかなく vã, efêmera	(17) やるせない triste	(18) 長距離輸送 transporte de longa distância
(19) 往復 ida e volta	(20) 指圧器 aparelho de massagem	(21) 睡魔 sono, sonolência
(22) 混交 misturar		

(23) 不良少年 delinquente juvenil (24) 救いの言葉 palavra de salvação (25) 不滅 imortal
 (26) 遮二無二 como louco, loucamente (27) 熱中 dedicar (28) 短距離 curta distância
 (29) 免許停止処分 suspensão da carta de habilitação (30) 並木道 alameda, caminho ladeado de
 árvores (31) 呪縛 feitiço (32) 日雇運転手 motorista diarista, que trabalha por dia
 (33) 直腸癌 câncer do reto (34) 信仰者 religioso

講師勉強会 (日本語)
 (直接出席及びバーチャル)

期日：2011年7月17日
 時間：9時～15時30分
 場所：伝道本部別館

担当講師：
 石井ルイス 本部講師補
 大越玉恵 アパレシーダ 講師
 横山豊 講師


お問い合わせ： tel. (011) 5014-2255 (講師部迄)

慈善焼きそば会

期日：2011年6月23日(祝日)
 10時～16:30分
 場所：伝道本部別館
 Av. Eng. Armando de Arruda Pereira, 348-SP

当日は焼きそばのほか、新鮮野菜、お菓子(おはぎ)、お花、その他が販売されます。抽選会も行なわれます。皆様のお越しをお待ちしております。

売上金は「大調和老人ホーム」の維持費等に当てられます。



大調和老人ホーム

「訂正とお詫び」

『円環』5月号2ページ13行目の国名に誤りがあり、訂正してお詫び申し上げます。

訂正前：ホンジュラス 訂正後：コスタリッカ

ち ほう だよ
地方便利り



「パラナ第3教化支部」のメンバーが、昨年9月の平和週間の行事の一環として、プラッサ・メロ・パレタの清掃及び生長の家 の月刊誌300冊を頒布した。Reg. Paraná 3, faz limpeza na Praça, e distribui cerca de 300 Revistas da Seicho-no-Ie.

聖市第五教化支部の子供会とジュニア会は、昨年7月21日に『憩いの園』を訪れ歌を披露した。入居者の皆様と楽しいひとときを過ごした。Reg. SP-5 Apresentação do Coral e dança do Kodomo-kai e Junia-kai no Asilo Ikoi-no-Sono.



「セントラル第一サテリテ支部」は、昨年GESTO癌センターを訪れ、日用品を寄贈した。(期日は不明) Reg. Central 1, faz visita e doação à GESTO(Grupo de Estímulo e Solidariedade ao Tratamento Oncológico)

